

信州大学サポーターズクラブメルマガ第 102 号 2022 年 1 月 31 日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 102 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2022 年 01 月 31 日

..... 毎月月末に配信しています

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大のコレ紹介します

信大からのお知らせ

信州再発見

□■シンダイ百科

『Ondemand Remake(オンデマンドリメイク)』

をご紹介します！

Ondemand Remake は、2005 年に繊維学部感性工学科の体験の場として、T シャツショップ Ondemand Remake を上田市の商店街に設立してスタートしました。繊維学部の 2 年生～大学院 2 年生まで 30 名で活動しています。現在の主な活動は『ハナサカ軍手プロジェクト』として、オリジナルの軍手を作る活動です。お話は繊維学部学生の佐藤さんに伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

□■信大のコレ紹介します

理学部 自然科学館

をご紹介します！

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2022.01.31



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第102号

—今回は Ondemand Remake の佐藤さんにお話を伺いました。

Q1)団体の概要を教えてください。

A)Ondemand Remake(オンデマンドリメイク)の設立は平成17(2005)年8月です。団体名の由来は、活動がオンデマンドの(=その人の要求に応じた)商品をリメイクするところから始まったため、とOBの方から伺いました。活動発足のメンバーであった先輩の中で、古着好きの方がいらっちゃって、その服のリメイクから始まったためであるそうです。(当時の活動場所には古着屋さんを併設していたとか・・・)服がよれてしまったとしても、愛着のある服を捨てるのはもったいないし、自分の好きな絵をプリントすればまた愛着をもって着られる!ということから、Tシャツプリントを開始したそうです。Tシャツ販売としては、毎年主に「県の森フェスティバル」で、信大の1年生に向け学科でお揃いのTシャツを受注・販売していましたが、2020・2021年は県の森フェスティバルが中止となったためこの活動は休止している状況です。しかし、現在は主な活動として「ハナサカ軍手プロジェクト」があり、長野県の小学1年生に「ちび軍手ィ」を配ることをゴールとして活動しています。

Q2)それでは「ハナサカ軍手プロジェクト」の活動内容を教えてください。

A)「ハナサカ軍手プロジェクト」では、カラフルなデザイン軍手「軍手ィ」を自分たちで企画・デザイン・印刷・販売しています。そして、毎年販売した収益で年度末に長野県の小学1年生に「ちび軍手ィ」を届ける、という地域貢献活動を行っています。これまで8万7千人以上の子どもたちに、「ちび軍手ィ」と笑顔を届け続けてきました。その他にも、地元の企業様とコラボレーションし、オリジナルの軍手ィを制作したり、県内各地のイベントにて直接販売したりしています。



【2021年11月 年に一度の「発売イベント」で、新柄のお披露目のためアリオ上田店へ出店したときの様子】

Q3)なぜ「軍手」をデザインすることにしたのですか？

A)13年前のメンバーの一人が、上田の子供達が、冬場は手袋代わりに軍手をつけて登校していることを知ったことがきっかけだそうです。そこから「軍手をカラフルにし、それを多くの方に身につけてもらえたら街が華やかになるのではないか」という考えで、軍手をデザインすることにした、ということです。

Q4)「軍手ィ」の名前の由来はありますか？

A)軍手 (GUNTE) + 愛 (i) = 軍手ィ (GUNTiE)

「軍手に愛を込めて!」という意味で、【軍手ィ】と名付けられました。

Q5) 贈呈する対象を「小学1年生」としたのはなぜですか？

A)OBの方からは、「まだ慣れない小学校生活に不安の残る小学1年生に、学校生活を元気に楽しく過ごして欲しい」という思いでプレゼントすることにしたと伺っております。ちび軍手ィの配布については、現状、長野県の特定の地域のみ限定されているため、まだまだ地域拡大の余地があります。(2021年度は、上田市・長野市・松本市・小諸市・東御市・坂城町・栄村の7地域と信大附属特別支援学校、信大附属小学校に配布いたします。)当面は、学年を増やすのではなく、できるだけ多くの地域に配布することを目標としています。

Q6)活動の方針はどのように決めているのですか？

A)まずは主に4年生が主体となり、今年度のテーマを決めます。(2021年度は、温故知新をもじった「オンデチン」というテーマを設定しております。)その後、営業部門・広報部門・商品部門と分かれてやりたいことを出し合い、全体で共有をして色々な意見を聞いた後、今年度具体的にやることの方針を決めます。

営業部門：新規販売協力店舗の獲得(2021年度は12店舗獲得)

広報部門：「#軍手ィコレクション」をつけたSNS投稿の募集、ECサイトBASEの立ち上げ

商品部門：反射材付きの軍手ィの提案、駅ビル等への軍手ィのディスプレイ設置等を2021年度は行っています。

Q7)かわいいデザインがたくさんありますがデザインはどのように作っていますか？また、毎年何パターンの新柄が作られるのですか？

A)毎年5月頃にサークル内でコンペを開催し、各々持ち寄ったデザインにメンバー内で投票をします。ある程度候補を絞った後、メンバー全員で「ここの線はもうちょっと長くはどう?」「ここにこういったモチーフをいれてみたらどうだろう」というようにアイデアを出し合い、ブラッシュアップを重ねた上、前年のデザインも含め色ごとにその年に販売する柄を決めます。ブラッシュアップを重ねても、やはり去年の柄の方が良いということになり、残念ながら不採用となってしまった柄も過去にはたくさんあります。柄数は年により異なりますが、約10柄の新柄が作成されます。大人の軍手ィ(S、Mサイズ)の柄は全部で13柄(11色)あり、今年は新しい柄が10柄あります。子供向け(XSサイズ)も3柄(3色、うち新柄2柄)ございます。



【2021年6月 軍手ィのデザインのブラッシュアップをしている様子】

Q8) 活動の中で難しかったことはありますか？

A)2021 年度の主な活動である、クラウドファンディングへの挑戦が挙げられます。当プロジェクトは 2021 年度で 13 年目を迎え、活動当初から使用している布製品用のプリンターが経年劣化してしまい、いつ使用できなくなってもおかしくない状態となっていました。私たちの貯蓄で購入することは可能ですが、布製品用のプリンターは高価であるため、ただ購入するだけでは活動費が激減し、今まで通りの活動を自由に続けることが難しくなってしまう状況でした。そこで、今後ずっとこの活動を続けていけるよう、新しいプリンターに相当する額を、クラウドファンディングにより集めることを決意しました。経験者の方やアドバイザーの方等に相談したり、メンバーと話し合いを重ねて準備を進めましたが、様々な意見をまとめ、一つの方角へ導くことが予想以上に難しく、大変だと感じました。結果としては 212 名の方から、合計 241 万 9000 円（目標達成率 69%）のご支援をいただきました。目標達成とはなりませんでした。本当に多くの方に応援していただいているありがたさを痛感いたしました。

Q9) 活動の中で自慢できることはありますか？

A)サークル活動ではありますが、営業担当として協賛企業の方やコラボ先の方とやりとりをしたり、広報担当としてメディア等外部にどのようにアプローチしていくかを考えたりなど、会社で働くような経験ができるというところです。社会に出る前の学生のうちにできるこのような経験は、勉強だけでは得られないものがあり、自分自身の成長を感じます。また地域貢献活動として、多くの方、企業の方にご支援いただいていることも私たちの誇りです。

Q10) 「軍手ィ」を受け取った小学生の反応で嬉しかったことはありますか？

A)1 年間の集大成として、ちび軍手ィ配布地域のいくつかの小学校を訪問し、直接軍手ィを配ったり、一緒に遊んだりして触れ合う場である贈呈式を行っているのですが（※2020 年度は新型コロナウイルスの影響により中止）、そこで小学生の笑顔を見られた時はやはり嬉しかったです。また週末に出店しているイベントで、通りがかった子供達が「軍手ィ前に貰ったことある!」「今も大事に持ってる!」とってくれることも多く、嬉しく思います。一人の子に話を聞いてみると、その子の学校では、軍手ィは 1 年のご褒美として配られるそうで、日頃よい行いをしている子から順番に自分の好きな柄を選べるのだと言っていました。この話を聞いて、『ご褒美』として扱われていると知り、非常に嬉しい気持ちになりました。



【2019 年 2 月 贈呈式で子どもたちと記念撮影】

Q11)「軍手ィ」「ちび軍手ィ」を作るうえで、それぞれ気を付けていることなどがあれば教えてください。

A)軍手ィは、軍手としては高価な物なので、確かな品質でお届けしたいというのが一番気を付けているところです。例えば、糸くずが出ているものや、少しでもプリントがずれてしまっているものが商品として世に出ないよう、細心の注意を払って確認しています。ちび軍手ィは、毎年子供たちが貰って喜んでくれる柄を考えて作っています。また、ちび軍手ィ自体についてはないですが、配布の際は一緒にプリントを添えて、ただちび軍手ィを配布するだけでなく、保護者の方にも私たちの思いや活動を伝えられる様な工夫をしています。

Q12) 今後、力を入れていきたい活動を教えてください。

A)毎年2月に行う贈呈式は、1年生と実際に触れ合える唯一の機会でもあるので、メンバー一同とても大切にしているイベントです。2021年度も対面での贈呈式が行えるかまだ分からない状況ですが、少しでも多くの子供達にちび軍手ィを配るため、日々活動に取り組んでいます。

Q13)メルマガ読者へ向けてメッセージやコメントがあればお願いします。

A)「ハナサカ軍手ィプロジェクト」に少しでも興味を持っていただけた方・このプロジェクトにご協力頂ける方は、メール(guntie@hotmail.co.jp)でお問い合わせ頂けると幸いです。もちろん、軍手ィを購入していただくこともご支援になります。少しでも多くの子供達に軍手ィを配るため、ご支援・ご協力をお願いいたします。

【ハナサカ軍手ィプロジェクト HP】

<http://www.guntie.net/>

13年という歴史の中で「ちび軍手ィ」は、子どもたちの中にも、また地域においても確かな形で残っていく素晴らしい活動だと思います。14年目あるいはそれ以降の活動継続を見据えて、新しいことに挑戦していく姿勢はとても良い刺激になります。これからも頑張ってください。応援しています。

信州大学サポーターズクラブ【信大のコレ紹介します】第102号

—今回は自然科学館3代目館長である、山田桂先生にお話を伺いました。

Q1) 自然科学館が作られたきっかけ等を教えてください。

A) 信州大学の各キャンパスに分散している貴重な資料の展示、データベース化とその公開、また小中高校生や市民向け体験学習事業の実施、教育研究活動への協力を行うために2012年に開館しました。実は、別の用途で建てられた建物を自然科学館として利用したので、一般的な公共の博物館や科学館のような構造ではありません。代わりに、メインの展示室や保管室では、来館者の方が自分で展示品を引き出しや棚から探して、資料を確認することができるようになっている、それが当館の大きな魅力の一つだと思います。



Q2) 展示品の見どころ、自然科学館でしか見られないもの等を教えてください。

A) 見どころの1つ目はライチョウの剥製です。だいたい明治末ごろから昭和初期のころに長野県の山で生きていたライチョウを捕獲し剥製にしたものを展示しています。日本でライチョウの剥製がこれほど多く保管されているのはこの自然科学館と国立科学博物館くらいだと思います。この剥製の良いところは、数が揃っており（季節によって羽毛が生え変わる状態がわかること）、保存状態も良く、いつどこで生きていたのか・どこで捕獲したのかの記録が残されていることです。これらが揃っているため研究材料としてもとても価値があります。実際にこのライチョウの剥製からDNAを解析して、どこの個体と近い遺伝関係であるか、乗鞍のものか或いはアルプスのものかということなどを分析・調査することができます。



見どころの2つ目は約40万点にのぼる植物標本で、こちらは現在データベース化を鋭意進めています。信州大学が収蔵している植物標本は「信州大学植物標本庫（SHIN）」に保管されています。信州大学で収蔵している標本なので、頭文字の「信」から「SHIN」というコードを付与して国際登録されました。ここでは標本を「科」（生物学の分類の一つ。界→門→綱→目→科→属→種の順に分類される）毎に分けて保管しており、来館者は保管室のどの棚で何を保管しているかをリストから探し出し、自由に棚から標本を取り出して見るすることができます。標本は旧制松本高等学校時代に収集されたものから、初代館長の佐藤利幸先生（植物生態学専門）のコレクション、長野県植物研究会の方々が精力的に採集した長野県内に自生していた植物（高山植物を含めて）を中心とした大変貴重な資料で、約100年前のものから現在に至るものまで多数の資料を保管しています。



見どころの3つ目は一般の方から寄贈された昆虫標本や学生が採集した化石の展示物です。当館で収蔵しているシンシュウゾウの頭骨化石は理学部の学生によって、旧中条村（現長野市）の約300万年前の地層から発見されました。この頭骨の化石には上顎（うわあご）の歯の部分が残っているのですが、この歯の並び方や形などからシンシュウゾウが現在地球上に生きている種とは異なる系統のゾウであり、当時の日本にはそれが生きていたという証拠になりました。また、昆虫の中でも特に蝶の標本は約5千点収蔵しています。これらは県内在住の収集家の方が実際に採集したものや、ご自分で採取した卵から育て上げ標本にしたものを寄贈していただきました。標本は昭和60年前後に作製されたもので、よく見ると同じ種でも一匹一匹模様や形が違うのが分かります。現在では採取が禁止されている種（特に高山蝶など）も含まれていますのでこちらも大変貴重な資料です。



Q 3) 現在、自然科学館には植物標本だけで40万点もの所蔵があるとのことですが、その外の資料も含めるとどれくらいあるのでしょうか？

A) 現在、当館で収蔵している資料のデータベースへの登録を鋭意進めていますが、正確な数は把握できていない状態です。植物標本だけで登録が完了しているものが約30万点、未登録が約10万点で合わせて約40万点です。この他には蝶の標本が約5千点、化石や剥製、研究資料として保存を目的とした仮剥製、旧制松本高等学校で保管・使用していた元素標本や実験器具など様々な物があり、正確な数を数え上げてお答えすることが難しいほど多数の資料を収蔵している状況です。

Q 4) 収集した展示品はどのように管理しているのでしょうか？

A) 自然科学館には専任の教員や学芸員が常駐しているわけではないので、理学部の学生が順番に開館のための開場、掃除、受付、案内などを担当してくれています。博物館実習や教職課程を取っている学生に声をかけて、来館者への説明をしてもらったりと、学生の協力によるところが多いです。その他にも展示物の解説を作ってもらう、データベースへの登録作業を担当してもらう等、中にはボランティアで来てくれる学生もいます。主に理学部の学生ですが専門は様々で、自然科学館の紹介動画を作ってくれているメンバーには人文学部所属の学生もいます。その他には大学院生の方にも声をかけてだいたい一年間で8～10人の学生が参加してくれています。学生の中には、恐竜の骨格の写真を見て紙で各パーツを一つ一つ手作りした骨格標本を寄贈してくれた人もいて、この標本は現在も展示しています。また、自然科学館の開館期間中は学生が当館のブログの更新をしてくれています。実際にその記事を見た雑誌のライターの方やテレビ局の方から写真を借りたいという申請が来たこともあります。



Q5) 先ほどお話にあった植物標本の「国際的なデータベースへの登録」について、それはどのように進めているのでしょうか？

A) 自然科学館ができてからコツコツと所蔵品のデータベース化を進めており、国立科学博物館のデータベースや国際的なデータベースにも植物標本の登録をしています。自然科学館のデータベースとは書式が異なることや、学名（ラテン語）の記載が必要であること、また分類の区分が正しいか確認する必要があることなどから、専門性が求められる部分も多々あり、そういったところで教員や専門に近い学生の力を借りて、登録内容を精査してからデータベースへの登録をしています。

Q6) 現在開館から10年目ですが、今後自然科学館を「こうしていきたい」といった抱負がありましたら教えてください。

A) 最も重要な課題は一般の方々への知名度を上げることだと考えています。自然科学館に足を運んでくださった方々には「ここにはこんなものがあるんだ!」「とても面白い」といったお声をいただくのですが、より多くの方に知っていただいて、実際に見に来てもらえるように知名度を高めていきたいと思っています。小さいお子さん、小中高校生の生徒さんが来てくださるよううまく連携したいですね。大学に直接用事が無い方ですと構内にはなかなか入ってこれないかと思っていますので、そういった学外の方でも自然科学館を目当てに気軽に大学に訪れてもらえるようにすることが地域貢献にもなるのかな、と考えます。その上で、サテライトの形で企画展示などを開催し一般の方にも知ってもらうことは重要で、これまでも松本市中央図書館や信州大学医学部附属病院、信毎メディアガーデンなどで展示をしてきました。また、現在は松本キャンパス内の理学部でも展示をしています。そうした活動は、「信州大学の自然科学館にはこんなものがあるんだ」という外へ向けた発信になりますので、今後も力を入れていきたいと思っています。そのほか、野外での勉強会を復活させることも計画しています。某番組のように、松本市を実際に歩いて自分で地質を確かめて、郷土の歴史や成り立ちといったものにより興味をもってもらえるような勉強会にしたいと思っています。



Q7) 最後に、一般の方が見学したい時はどのように申し込めばいいのでしょうか？

A) 自然科学館は6～10月に週2日（2021年度は火曜日と土曜日のみ）を定期開館しています。その時に来ていただければ自由に入って見学していただけます。それ以外の期間でも、HPに掲載している電話番号に事前にご連絡をいただければ見学可能です。

信州大学自然科学館HP

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/museum/>



今回初めて取材のために訪れましたが、大学の中にこんなにも面白い場所があると知っていたらもっと早くに来ていたのに思いました。ライチョウや蝶の標本やシンシュウゾウの化石模型、見たことのない植物標本など、今回は貴

重な資料をたくさんご紹介いただきまして、ありがとうございました。新しい企画が始まるのを楽しみにしています。

信州大学サポーターズクラブ【信州再発見】第 102 号

ー今回ご紹介するのは「やしょうま」という、長野県の各地で食べられる伝統食です。

やしょうまは米粉を蒸（ふ）かしてつくる餅菓子です。手のひらに収まってしまう丸く平たいお餅の真ん中にはさまざまな花の模様があしらわれています。見ているだけで暖かい春が訪れたような華やかな気持ちになります。下の写真では花があしらわれていますが、地域によっては花に限らず干支を模したものや、生地には黒ごまや青のりを混ぜ込んで作るもの、うずまき模様や山を模したような3つのコブを作るものなど、色々な種類を作るようです。



パッケージの裏には『古来、各寺院ではお釈迦様の入滅をしのんで、毎年2月15日に行われる法要に餅菓子をお供える習わしがあります。この餅菓子が「やしょうま」と呼ばれています。各家庭でも米の粉に色どりを加えさまざまな模様を作り、仏壇に供え先祖の供養をします。』といった説明が添えられていました。「やしょうま」という名称についてももう少し調べてみたところ、この餅菓子をお釈迦様の弟子の「やしよ」が作り、お釈迦様に食べさせたところ「やしよ、うまかったですよ」といった、というお話や、米粉を蒸かして整形する時に箸などで押さえつけて中央を膨らませた形を作る際に、その形が瘦馬（やせうま＝やせたうま）の背中や頭の形に似ているところから来た、というお話を見つけることができました。名前も「やしょうま」「やせうま」「はなもち」など数多くありました。子供の頃はただ食べることが楽しみでしたが、ちゃんと由来があったことに少なからず驚き、また勉強になりました。

さっそくいただいてみました。食べ方はレンジやトースター、フライパンで1ー2分あぶって、お餅が膨らんで、ほんのり焦げ目が付いた状態になればOKです。味付けは砂糖醤油が簡単でお勧めです。焼きたてにたっぷり付けると美味しいと思います。



今回初めてやしょうまを知ったというサポーターズクラブスタッフに食べてもらい、感想を聞いてみたところ「舌触りがなめらかで食べやすい」「素朴なやさしい味」「見た目よりもっちりした触感」「お餅とはちがう美味しさ」などの声を聞くことができました。1月中旬になると、やしょうま作りの会を公民館などで開く地区もあり、参加者は子どもたちからお母さんやおばあちゃん世代まで幅広く参加します。また、家庭で手作りするところもあるようです。今回やしょうまについて調べたり実食を通して感じたのは、地域に伝わる慣習や食文化の面白さと、これからも伝えていきたい昔からの大切な文化だということです。いつも何気なく目にしていることも、その由来を辿るとまた別の面白さがあるかもしれません。もし機会がありましたら、一度ご賞味ください。

【参考】

- ・レファレンス協同データベース
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000076974
- ・YouTube 動画「つなぐ安曇野の農と食～やしょうま～」
https://youtu.be/_LMBcggoWnU
- ・信州郷土料理「やしょうま」の作り方を学ぼう J A 長野県
<https://oishii.iijan.or.jp/area/post-1203>
- ・やしょうま 長野県一農林水産省
https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/yashouma_nagano.html